

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成21年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	有限会社ばすてる		
事業所名	どんぐり庵さんだ		
所在地	(〒243-0211) 神奈川県厚木市三田2-1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで暮らすことになってもその人らしい生活を送ることができるようにこころがけている。本来は施設の買い物や個人の買い物または散歩、ドライブなど外出を日常的に行っているが新型コロナウイルス感染防止のため外出制限をしている。日常における家事は職員だけで行うことはせず入居者と一緒にもしくは入居者中心で行うようにしながらできることを探している。また入居者が健康に暮らせるようにかかりつけ医や看護師に協力してもらい日々の健康チェックをしている。体調に変化があったときは即座に対応できるよう日々の情報交換や入居者の観察に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年10月15日	評価機関 評価決定日	令和3年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇感染症(新型コロナウイルス)の対応 令和3年10月1日から神奈川県は全面的に緊急事態宣言が解除されたが、利用者と職員の全員は2回のワクチン接種を済ませ、利用者と家族の面会は予約制で、一週間に一人程度、5分以内、事業所玄関先にて2mの間隔を取ることになっている。また、近所にスーパーマーケットがあるが、外出や散歩は事業所の敷地内に限り外気浴を積極的に勧め、直ちに全面解除せず、注意ぶかく見守っている。
【事業所が工夫している点】 ◇食事を楽しむ工夫や配慮 和食を中心に提供しているが、定期的なパン・スープのほかヤキソバ・スパゲッティ・そば・のり巻きを組み入れ、昼食・夕食には利用者が食事作りに参加し、食事に関して多様性や喜びを与えている。食事ごとに職員が固さ、見た目、味付け、量について、また、熱い・適温・ぬるい・冷たいについてチェックするシステムを取り入れている。別メニュー(おかゆ、ムース食、ごはん限定)や栄養指導のある場合には実施状況を記録し、健康改善を図っている。 ◇「ヒヤリ・ハット」で危険予知をする工夫 ヒヤリ・ハット用紙に危険を感じた個所や動作などを記録報告し、転倒・骨折などの危険項目ごとに集計し、問題解決に向けて検討し改善している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関内と1F2Fのトイレに掲示しており必ず目につくようにしている。またケアに迷った時などは理念を振り返り入居者本位に考えるよう促している。	・事業所の理念「あなたの自由な気持ちをまもります」（抜粋）を玄関と各階トイレに掲示し、利用者や訪問者にも目につくようにしている。 ・管理者と職員は、定期会議や申し送りノートにて実践状況を振り返り、理念の具体化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	令和2年3月から面会を禁止にしている。自治会からの行事の予定、中止の連絡は来ている。敬老祝いは集まりはなく記念品をいただいた。（新型コロナウイルス感染防止のため）	・自治会に加入している。コロナ対応で行事の開催がないため、利用者と職員の参加はないが、自治会の回覧により諸連絡事項を得ている。 ・コロナ対応以前は、近隣のスーパーや美容院に出かけ地域とのつながりに努めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年3月から外部との交流は制限している。包括支援センターなどの相談は電話で行っている。（新型コロナウイルス感染防止のため）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度から運営推進会議は行っていない。（新型コロナウイルス感染防止のため）	・平成2年4月からコロナ禍の影響により、多人数、対面、閉鎖空間、外部参加などを避けるため、書面で運営状況や利用者の状況を報告を構成員に郵送報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給の入居者については市の担当者と連絡をとりあっているがその他の入居者については行っていない。	・厚木市役所の介護保険担当や生活保護担当者とは、事務手続きや取扱いの確認など連絡を取りあっている。 ・コロナ禍までは、運営法人が市職員の講師を招き、認知症サポーター研修を行ったことがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に1回のマニュアル研修と3ヶ月に1回の委員会は書面でのやり取りとなっている。ヒヤリハット用紙を活用して拘束を意識する訓練を行っている。（新型コロナウイルス感染防止のため）	・年一回の研修会を実施し、自己点検シートや行動制限・抑止につながる声かけ・大声の禁止など身体拘束のないケアに取り組んでいる。 ・ヒヤリハットをなくすため、3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し事例検討をしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回のマニュアル研修と3ヶ月に1回の委員会は書面でのやり取りとなっている。ヒヤリハット用紙を活用して拘束を意識する訓練を行っている。（新型コロナウイルス感染防止のため）	・マニュアル「高齢者虐待/身体拘束について」を用いて、定期的(年一回、3ヶ月ごとの委員会)に事例検討や見過ごし・気になる点を探り、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の支援が難しい入居者には後見人制度の活用を勧め、病院の相談窓口や権利擁護相談センターに話をつなげている。職員の知識としては不十分だが研修も行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや見学の時点で入居に必要な料金、物品の説明プリントを渡している。入居後の家族の協力に関しても了解したうえで入居意を決定する。契約の時には契約書と重要事項説明書を詳しく説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を定期的にうかがう機会はない。必要時に電話で申し出ることがあるが意見を遠慮している家族もある。意見をもらった時には改善できるよう話し合っている。	・コロナ禍の影響で家族の訪問は少なくなっているが、運営の意見・要望を受ける場合もあるので、相談記録/苦情受付書に記録し、家族意見の把握と共有に努めている。 ・電話が話しやすい機会となっているので、大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	課題について管理者から報告を聞くことはあるが積極的、定期的には行っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のミーティングの際に運営に関する職員の意見や改善提案を把握し、運営に反映させるように努めている。 ・反映事例として、浴槽の簡易リフトを設置し、移動時の転倒防止用にスライドシートを使用している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間ややりがいについて課題となっていることは多くあるのは理解している。整備には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・シフト表設定の際に、可能な範囲で私的行事による休暇を取得できるように配慮している。 ・外部研修がある場合に、旅費や関連実費の支給、出勤扱いにするなど、便宜を図っている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施出来ていない。今後はオンライン等による研修を取り入れることを検討したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的(年一回、3ヶ月ごと)な研修を通して、テーマの知識や技術の取得を行っている。多くの職員が参加し、疑問点を出し話し合い、職員の意識向上と育成に取り組んでいる。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は実施出来ていない。今後の感染状況を見ながら行えるよう努力したい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談は自宅玄関先か施設玄関で行っている。(新型コロナウイルス感染防止のため) 今までの生活や要望は言葉で聞き、入居の際は使い慣れた家具や身の回りの品を持ってもらっている。入居初日は職員対応を手厚くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や施設玄関での面談にて家族から話を聞いている。入居者本人が入居を拒んでいる場合にも落ち着ける方法を提案し家族に安心してもらえよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅で困っていたことを参考に入居後は環境を整え手助けすることにより困りごとを解決するように努めている。他の介護保険サービスは使えないが福祉用具の提案はしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	危険を伴うことも制限せず、包丁仕事や針仕事も職員の見守りの中行っている。身体的に重度の方でも他者の話し相手の役割を持っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	物品の補充や外部医療機関の通院など家族協力の場面を作っている。現在面会は条件付きで可能となっているが予約などの都合が合わない方は電話で関わっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のみ制限ありの面会は受けている。友人の面会は断っている。施設の電話に友人からかかってきたり携帯電話を所持している入居者は自由に通話している。いずれも特定の入居者である。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は、近隣のスーパーや美容院に行く利用者のために、買い物の支援や予約の手伝いを行っていた。 ・これまで、毎月遊びに来る友人やたまに訪問する知人には、居間に案内したり、湯茶の提供を行い、関係の維持に努めていた。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室への出入りは自由に行っているが共同リビングで過ごす入居者が多い。進んで食事介助をする入居者には職員の見守りの上安全の範囲で手伝ってもらっている。洗濯物などもできる人が出来ない人の分を手伝っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居直後は次の行き先への情報提供など手伝うことがあるが長いお付き合いはない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	対象者と意思疎通を図り本人の希望や生活を知り自分らしい生活が出来るよう努めている。意志表現が困難な方は今までの生活や家族の情報から気持ちを考えるようにしている。	・日常生活の中で利用者や家族から希望や意向を聞き取り、本人のケアプランに活かすよう一人ひとりの思いの把握に努めている。 ・自分の希望や意見を言うのが苦手な利用者には、日頃の介助や何気ない仕草から要望をつかみ、職員間の情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今までの担当ケアマネに情報をもらい入居生活に戸惑わないよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の記述や申し送りから情報を得ている。また計画作成者も現場に入る時間を設け、直接入居者と関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題に対して改善しているかしていないかを職員の情報と直接入居者と関わることで評価している。計画作成時には電話などで家族に説明してから同意をもらっている。	・計画作成担当者を中心にケアカンファレンスで、モニタリング結果を含めて情報をまとめ、介護計画を見直している ・6か月ごとに利用者の状態の変化や家族の希望、医師・看護師の意見を聴きながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間は職員が変わるので時間帯ごとに記録を残している。また職員交代時の申し送りや情報交換をしている。それらの情報から変化を把握しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険内のサービスは限られるが気持ちが豊かになる生活に必要なものを家族と協力して考えたり用意している。福祉用具業者の協力も有りそれぞれに合った福祉用具の提案もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出はできないため住居前のスペースで外気浴程度を行っている。また自治体のゴミ出しを日課にしている入居者もいる。(新型コロナウイルス感染防止のため)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医を希望する入居者が多く職員が通院などの対応をしている。入居前からのかかりつけを継続している方は家族が通院対応をしている。どちらも事前事後に報告をしている。	・ほとんどの利用者は、事業所の協力医療機関(外科内科、眼科)の医師、歯科医師の訪問診療を受けている。 ・入所前の脳神経科をかかりつけとして継続する利用者もあり、その際は家族が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異変がある時は昼夜問わず看護師に連絡している。指示により受診や救急対応の支援をしている。その際は家族にも連絡し必要に応じて医療機関に出向いてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ診療所の看護師が施設の看護師担当の為入院中の情報はやり取りしやすい。他のHPの場合も施設とHP間で電話などで情報交換している。退院後のケアについても相談しあっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りケアについて説明している。実際に終末期を迎えたときには改めてケアの方針を医療スタッフ、施設職員、家族とで話し合っている。	・入居時に看取り指針と終末期の方針を説明している。 ・これまで看取り実績があり、早い段階から医療スタッフ(医師・看護師)と家族や職員が連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救急救命講習は参加できていない。施設内で研修会も延期しておりマニュアルの確認と業務の中での練習を個別に行っている。(新型コロナウイルス感染防止のため)		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を今年度は9月と3月に予定している。消防員の参加はその時の新型コロナウイルス感染状況により決定することになっている。通報訓練と水消火器訓練を行う。	・夜間想定を含め年2回の避難訓練を行っている。消防署の参加指導がある場合には、水消火器で消火訓練をし、避難誘導の際の指導を受けている。 ・非常災害用の食料や飲料を3日分備蓄し、リスト管理をしている。	コロナ禍により地域の交流はできませんが、災害や緊急時には、自治会や近隣住民による協力関係が欠かせません。日頃から情報交換や応援要請ができる関係の構築を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室、浴室、トイレは個室になっている。いずれも介助が必要な場合はできるだけ露出しないように注意している。動作が自立で介助を受けたくない方は本人や家族の許可を得てドア外で様子観察をしている。	・職員は一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちを大切に対応している。 ・内部研修や会議でプライバシーを尊重し、言葉かけや介助支援時の行動に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲食物は好みを聞くか答えられない方は進み具合で判断している。着衣や髪形などは職員が判断することが多いが身だしなみに気を付けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごしたい場所（共同スペースか個室か）希望に沿うようにしているが昼夜逆転しないよう声を掛けるようにしている。外出希望には応えられていない。（新型コロナウイルス感染防止のため）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男の方の髭剃りは毎日行うよう促している。女の方も髪形、化粧は自由にしている。手伝いが必要で希望が言えない方には職員が髪形などを提案している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共通のメニューはあるが個々の嚥下、咀嚼状態に応じて形態を変えている。好みの要望が強い方には別メニューを提供している。料理の特異な入居者もいて煮る、炒める、味付けまで行っている。片付けもお任せしている。	・昼食及び夕食には、利用者も参加して食事作りをし喜びを感じている。 ・食事ごとに味や量など、職員による簡易チェックをしている。別メニュー（おかゆ、ムース食、ごはん限定）や栄養指導のある場合には、記録し、健康改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の水分摂取目標が明記されていて摂取ごとに記録を付けている。健康管理上支障がない範囲で好きなものを飲んでもらっている。食事量も記録していて好みや体調の観察に活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員食後に毎回歯磨きをしている。歯の1本1本までの磨き具合までは確認できていない。必要な方は歯科往診を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を付けていて失禁が多くなった場合には誘導間隔を短時間にしたりトイレ動作がしやすいよう着衣や環境の工夫をしている。つかまり立ちが出来ない入居者は二人介助でトイレで排泄をしている。	・排泄のリズムを把握・記録し、さりげなく声かけし、トイレでの自立排泄に向けて支援している。 ・車イスや動きがスムーズにできない利用者には、移動しやすいように周囲に目配りし、また着衣を手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最低限目標量の水分はとるように支援している。オリゴ糖や寒天など排便を促す食品の活用や適度な運動も取り入れている。便秘が続く場合は看護師の指示により下剤を服用する。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回は入浴するようにしている。予定は組むが午前と午後を変えたり翌日に変更したり本人の気分を優先している。連日に入浴希望あれば応じている。他者に見られたくない方は家族の了解の上ドア外で様子観察をしている。	・午前午後の選択、シャワーや清拭だけの入浴など利用者の要望に配慮している。 ・ゆっくり話のできる機会を作り、一人だけ入浴したい利用者の場合は、外から入浴の様子を見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は定めていないが昼夜逆転しないように時間を見て促すことはある。生活習慣により短時間の昼寝をする方もいる。季節に合った着衣、寝具、空調の援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬は説明書を受け取っており効能や副作用を確認できるようファイルしてある。薬の準備や服用時には複数の職員で確認するようにしている。内容に変更があった場合には様子観察をし看護師に報告している、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や趣味など余暇活動もするが男女問わず家事を行う方が多い。料理、洗い物、洗濯、床掃除、施設内の消毒も職員と入居者が一緒に行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は禁止となっている。散歩も近所は人通りがあるため行っていない。施設前のスペースで外気浴はしている。（新型コロナウイルス感染防止のため）	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため外出や散歩は、事業所の敷地内に限って行っている。 ・外気浴は、玄関前のスペースにおいて積極的に行い、気分転換の機会としている。 	日常的な散歩や外出は、コロナ禍のためできていませんが、体操、室内歩行、外気浴を今後も継続し、体力維持、気分転換を図ることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を所持しており散髪代など支払いを行う方はいる。管理が難しい方はお小遣いを施設で管理して使った内容は毎月家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは自由に行っている。携帯電話の所持も自由で現在は二人の方が使用している。手紙は出す機会がなく行っていない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温湿度の調整や換気を行っているが掃除か行き届かないことがある。外部の定期清掃は延期中。（新型コロナウイルス感染防止のため）	<ul style="list-style-type: none"> ・温度や湿度が管理された居間には、明るく清潔感を保っている。 ・コロナ禍のため業者による定期清掃は延期しているが、職員による清掃と利用者の手伝いもあり、居心地よく過ごせるように努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングの席は定位置があるが入居者同士の関係を考慮しながら変更することはある。また移動は自由である。ソファの設置もありくつろげるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具や私物は自宅で使っていたものを持ってきてもらうよう勧めている。電動ベッドが設置してある居室があるが希望により和布団を使っている入居者もいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・備え付けとしてエアコン、ベッド、クローゼットがあり、防火カーテンは利用者が持ち込んでいる。テレビ、小机、思い出の写真や好みの品は持ち込みができる。 ・清掃は、職員と利用者が行い、清潔で居心地の良い居室にしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー構造にしており出来るだけ自力で移動できるようにしている。また居室日は表札を、トイレには目印を付けて迷わないようにしている。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関内と1F2Fのトイレに掲示しており必ず目につくようにしている。またケアに迷った時などは理念を振り返り入居者本位に考えるよう促している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年3月から面会を禁止にしている。自治会からの行事の予定、中止の連絡は来ている。敬老祝いは集まりはなく記念品をいただいた。 (新型コロナウイルス感染防止のため)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年3月から外部との交流は制限している。包括支援センターなどの相談は電話で行っている。(新型コロナウイルス感染防止のため)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度から運営推進会議は行っていない。(新型コロナウイルス感染防止のため)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給の入居者については市の担当者と連絡をとりあっているがその他の入居者については行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に1回のマニュアル研修と3ヶ月に1回の委員会は書面でのやり取りとなっている。ヒヤリハット用紙を活用して拘束を意識する訓練を行っている。（新型コロナウイルス感染防止のため）		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回のマニュアル研修と3ヶ月に1回の委員会は書面でのやり取りとなっている。ヒヤリハット用紙を活用して拘束を意識する訓練を行っている。（新型コロナウイルス感染防止のため）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の支援が難しい入居者には後見人制度の活用を勧め、病院の相談窓口や権利擁護相談センターに話をつなげている。職員の知識としては不十分だが研修も行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや見学の時点で入居に必要な料金、物品の説明プリントを渡している。入居後の家族の協力に関しても了解したうえで入居意を決定する。契約の時には契約書と重要事項説明書を詳しく説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を定期的にかがう機会はない。必要時に電話で申し出ることがあるが意見を遠慮している家族もある。意見をもらった時には改善できるよう話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	課題について管理者から報告を聞くことはあるが積極的、定期的には行っていない。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間ややりがいについて課題となっていることは多くあるのは理解している。整備には至っていない。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施出来ていない。今後はオンライン等による研修を取り入れることを検討したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は実施出来ていない。今後の感染状況を見ながら行えるよう努力したい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接を通し、本人、家族より入居に対する不安、要望を聞き取りそれらの情報を加味しながら本人とのコミュニケーションを図り関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテークに於いて、家族よりサービスに対する希望、要望などを聞き取り入居後のサービスに反映しています。環境の変化によるご様子は電話などで伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談しながらサービスを提案し支援すると共に、福祉用具などの介護保険外のサービスについても必要に応じて情報提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事作業などを入居者が主となり行って頂くことで介護されるのではなく、共に生活を送るというイメージをもって頂けるように支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の精神面、体調面などの変化を家族と共有することで必要に応じて家族対応の通院やかかりつけ医との面談に協力をいただいています。コロナ渦であるが電話や短時間での面会対応を行っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦により、面会、外出を制限しているために実施できていません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの座席は、概ね固定されていますが、入居者同士の関係性やトラブル時などに合わせて随時テーブルや席の配置を変更するなどの対応をしています。 また、家事作業やレクリエーションの時などは座席を移動し多人数での関わりが持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居直後は次の行き先への情報提供など手伝うことがあるが長いお付き合いはない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のコミュニケーションから本人の趣味、嗜好などの希望、要望を汲み取り実現できるように介護者は検討しています。 また、訴えることが困難な方については家族から聞き取りを行ったり日常の様子から把握に努めて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人、家族からの情報提供以外にも担当ケアマネジャーや以前利用されていた介護サービスからの情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定の実施、食事、水分摂取量などの身体状態の把握に努めつつ、家事作業や体操など1日の過ごし方として小さな事でも参加して頂けるような働き掛けを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、入居者との関わりのなかで身体的、精神的な課題を見つけミーティングや申し送りを通して意見交換をし介護計画の立案、実行をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体重増加に伴う減量のために食事内容の工夫し、毎週体重測定を実施し記録に残しています。粗暴行為のある方は、別紙で毎日のご様子を記録に残し、かかりつけ医に情報提供を行っています。これらの情報は介護計画の見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ渦のため面会を制限しているが、家族からの要望に併せ短時間の面会ができるように対応しています。遠方の家族には電話連絡などで様子をお伝えしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦のため外出は実施出来ません。ネットスーパーなどを活用し本人が食べたい果物などを注文し提供しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良の際には、職員が付添い協力医療機関を受診しています。また、協力医療以外の受診は家族の付添い協力があり情報提供、連絡は施設が行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緩下剤の調節や体調の変化などは、その都度看護師に相談し指示を仰いでいます。 現場では対応出来ない処置については看護師が対応するか、協力医療機関を受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院は協力医療機関の場合、往診時に医師や看護師より情報提供され、情報交換はし易く早い対応が行えるようになっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りについての指針」を説明しサインをもらっている。重度化した場合、終末期の在り方については家族、医師、看護師との面談を行いその後の意向、方針を決め、看取りのケアプランを作成し支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	食べ物が喉に詰まった時の対応については、応急手当や初期対応の訓練を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づき年2回非難訓練を実施しています。その際に、水消火器の取り扱いを学び実施しています。水害については、地域指定に含まれていないため行っていません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	手伝いをお願いする際は本人ができる出来ないの意思を確認、やりたい事を尊重し一緒に行く。申し送りや排泄の際は他者に聞こえないよう誘導をしたり声かけ、小声で会話するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲食などの希望は優先して本人の話を傾聴し、本人と確認をしながら希望が叶うよう支援に努めている。希望を言えない方には選択肢を用意し自分で選んでもらうようにしている。外出は制限があるためごみ出しなどで気分転換を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で過ごしたい方は居室へ誘導、フロアで他者と過ごしたい方は一緒に雑談やTV鑑賞、音楽をかける等一人ひとりが思うような過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で使用しているスキンケア用品は家族へお願いし購入してもらっている。日々の整容で髪を整える、服を選ぶ、髭を剃るなどの自身でできることは行ってもらい、出来ないことに関しては職員が支援する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食準備の際は職員と一緒に調理に参加してもらおう。盛り付けも台所に立てなくてもできるよう下準備し座ったまま出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常食の方と同様ムース食を摂取している方もカロリーやバランスを考えメニュー作成し提供を行っている。液体摂取困難な方はゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを自立の方へは声かけを行い自身で行って頂く。自身で出来ない方に関しては職員が行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の訴えがなくても、その日の水分量や下剤の服用、トイレ回数等を考慮し定期的に声かけを行う。立位が不安定な方は職員が支え介助しポータブルトイレを使い安全に排泄介助が行えており失禁回数が減ってきている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の簡単な体操の実施を昼食前に行っている。便秘を防ぐために食物繊維の摂取を寒天パウダーを用いゼリーを作り提供したり汁物や白米に入れ便秘対策を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望がある際は本人の意思を尊重し午前から午後へ変更したり、湯船に浸かることができなければシャワーだけに変更したり次の日に入浴してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせた入床時間を心がけておりリネンなども季節や気温に合わせて変え対応している。日中の活動量に気を配り安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにすぐに確認できるよう薬表が綴じてあり、薬の種類や分量が変更された場合は、副作用やご様子の変化などに配慮し記録を残し職員間で情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた装飾を入居者と一緒で作成し掲示するようにしています。季節や慶事に合わせた食事を提供するように努めています。その際には入居者にも協力して頂き楽しんで作業されています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の為に現在は外出支援は実施出来ていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお小遣い程度の金銭管理を任されています。家族が承諾の上で本人が金銭管理を行い散髪代を自分で支払っています。大金や通帳の管理は家族や後見人が行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮しながら本人が家族との電話でのやり取りを行っています。 現状では、手紙を書かれる方がいないため行えていません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着きを妨げるような装飾はせず安心感を感じられるような壁面飾りを作成したり、日めくりカレンダーを設置する事で時期が解るように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に沿って座席の移動を行い又気の合う方々で過ごせるように工夫しています。 現状では、独りになりたい時は自室に戻り過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた私物を設置する事で、居心地の良い居室になるように努めています。また、身体の変化に合わせて家族との相談しながら介護ベットへの移行なども行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りの設置また移動の際に障害となるような物が置かれていないように環境整備を行っています。 入居者の視線の高さに合わせて居室、トイレなどに表示し迷わずスムーズに生活が送れるようにしています。		

目標達成計画

事業所名 どんぐり庵さんだ

作成日 令和3年11月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	コロナ禍以前から行き止まり立地と近所に自治会加入者がいない為、周辺との付き合いはない。今後も関係構築は困難な雰囲気である。自治会のメンバーとは協力関係にある。	災害、緊急時に自治会の協力を得られるようにする。	防災対策マニュアルに自治会メンバーの具体的な役割を明確にする。施設の避難訓練に参加して頂く。以上を顔合わせによる運営推進会議で話し合い実行していく。	6ヶ月 (令和4年5月の運営推進会議までに。コロナ禍状況により顔合わせは未定)
2	49	外出制限の解除が未定である。入居者の体力、筋力また、意欲の低下が心配される。	入居者の体力、筋力、意欲を維持または向上できる。それによりいつでも外出を再開できる。	室内での体操や歩行、階段昇降を伴う掃除など行っていることを継続する。	期間未定。 外出制限解除後すぐに。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。